

# 広島県において明治期に創設された幼稚園の 存続理由に関する研究

## A Study on the Continuity of Kindergartens Founded During the Meiji Period in Hiroshima Prefecture

岡崎 善治\*

Yoshiharu OKAZAKI

### 要約

我が国における就学前の子どもを育てる代表的な保育施設といえば、幼稚園、保育所、認定こども園であるが、その中の幼稚園については、定員を満たさず行きつくところ廃園に至る園も少なくないのが現状である。そうした中、本研究では広島県において、明治期から存続している幼稚園に現在勤めている全教職員を対象に、存続の理由に関する意識調査を実施し、存続を可能とするものが何であるかを検証した。

その結果、選択項目では「創立者の理念についてどのように思いますか」と「現経営者の理念についてどのように思いますか」や「他の幼稚園と比較して、貴園は優位性があると思いますか」と「貴園の存続を脅かすものはあると思いますか」などの問いに対して有意な差が見られた。記述項目では、①～⑮の問いに対し、子ども、保育者、保護者の三つの視点を踏まえ、時代の流れに応じた柔軟な対応をしていくことが存続し続ける上で重要であることが示唆された。

### Abstract

In our country, the main types of educational facilities for preschoolers include preschools, nursery schools, and certified child care facilities. Among preschools, many do not meet the minimum enrollment and often close their doors. In this study, a survey was conducted at preschools operating since the Meiji period in Hiroshima Prefecture to analyze awareness among the current teaching staff about the reasons behind the enduring existence of their preschools. The objective was to investigate the factors that make their continued survival possible.

The result showed a significant difference in responses to multiple-choice questions concerning their opinions on the institution's founding philosophy and the present management's philosophy, whether they believe their institution is in any way more superior to other preschools, and if they felt there was any threat to the continued existence of their institution. In contrast to the fifteen multiple-choice questions, the result of the free response questions, based on the viewpoints of children, childcare workers, and guardians, suggest that flexibility that meets the needs of the times, in addition to the enduring continuation of individual schools are important.

### キーワード：

理念, 園児募集, 時代の流れ, 子ども, 保育者, 保護者

### Key words :

Idea, Kindergarten recruitmet, Trend of the times, Child, Childcare person, Guardian

## I. 緒言

1871(明治5)年に我が国で最初の近代的学校制度を定めた教育法令として「学制」が發布され、その4年後の1876(明治9)年には我が国で

初めての幼稚園(東京女子師範学校附属幼稚園、現在のお茶の水女子大学附属幼稚園)が誕生した。

その後、年々幼稚園が増えていくにつれ、法整備の機運が高まり、1899(明治32)年には、幼稚

\*本学専任講師

園について初めて詳細な法的規定が設けられた点で重要な意義をもつ「幼稚園保育及設備規定」が、1926（大正15）年にはわが国ではじめて幼稚園に関して独立した勅令である「幼稚園令」が、そして1947（昭和22）年には学校教育の制度の根幹を定める法律として「学校教育法」が制定し、その後は30回以上にも渡り改正されながら現在に至っている。

こうした時代の流れの中で、我が国の教育への関心が高まり、就学前教育（幼児教育）もこの流れを受けて発展の一途を辿っていくことになる。しかし、こうした流れにも陰りが見え始め、幼稚園における在園児数では、1978（昭和53）年の249万7730人を境に減少（国立はその後増加し平成12年を境に減少、公立は翌年の昭和54年を境に減少、私立は全体と同じ年に減少）し始め、幼稚園数は1985（昭和60）年の1万5220園を境に減少（国立は平成4年に49園になって以来現状維持、公立は全体と同じ年、私立は前年の昭和59年を境に減少）し始めた。

一方で保育所は、2006（平成18）年から始まった認定こども園制度により、認定こども園が事実上開園し始めるまでは、母親の就労支援などによる受け皿として増加の一途を辿っていた。

認定こども園については、2011（平成23）年度に762園、24年度が909園、25年度が1099園、26年度が1360園、そして27年度は2836園と、設立し始めてから年々増加し続けている。

このように保育所や認定こども園は増加傾向にある中、幼稚園については存続の危機にある園が少なくない。140年に渡って我が国の就学前教育（幼児教育）の発展に寄与し続けてきた幼稚園が時代の流れとはいえこうした状況に陥っている現状を見るにつけ、その打開策を見出すことは、我が国における就学前教育（幼児教育）の活力につながる第一歩であるといえる。

このように幼稚園（数）の歴史的な経過を踏まえ、本論文に類似した先行研究を調査してみると、皆無である。本論文の著者が「広島県における幼稚園の設立と発展過程に関する研究－明治期

に創設された幼稚園（8園）を中心に－」（2012年）で明らかにした明治期における広島県内の幼稚園の実態を踏まえ、現在も存続している園が、存続し続ける上で可能とするものが何であるのかを検討するものである。

## II. 方法

### 1) 手続き：

明治期から存続し続けている広島県内の私立幼稚園（6園）の園長に調査用紙の主旨を電話にて説明し、郵送にて園に配布する。配布した調査用紙を園長より全教職員へ配布と回答を依頼する。調査用紙は匿名での記載である。記載された調査用紙は、回答者個人が添付された封筒に厳封の上、園長に手渡し、園長は全教職員の厳封された調査用紙を一括して管理し、同封されたレターバックライトにて返送していただく。

本調査の実施に先立ち、本研究は中京学院大学中京短期大学部研究倫理審査会の承認を受け実施するものである。（承認番号：第25030号）

回収されたアンケートは以下の視点で解析を行った。

1. 幼稚園が存続し続けている理由に関する教職員の意識調査（選択項目）の結果について
2. 幼稚園が存続し続けている理由に関する教職員の意識調査（記述項目）の結果について

### 2) 調査対象：

広島県内において明治期に創設され、現在も存続している幼稚園で、そのうち本論文では現存している8園中6園（広島女学院ゲーンズ幼稚園、フレーザー幼稚園、尾道幼稚園、めぐみ幼稚園、聖愛幼稚園、的場幼稚園）に依頼した。

調査用紙配布部数と回収部数及びその回収率は、全体で58部（人分）配布し、43部（人分）回収、回収率は74.1%であった。

園毎では、広島女学院ゲーンズ幼稚園が21部中11部回収、回収率52.3%、フレーザー幼稚園が6部中6部、回収率100%、尾道幼稚園が7部中7

部、回収率100%、めぐみ幼稚園が9部中9部、回収率100%、聖愛幼稚園が4部中3部、回収率75.0%、的場幼稚園が11部中7部、回収率63.6%であった。

43名の回答者の内訳は、男性が4名、女性が39名、平均年齢は男性が53.3歳、女性が37.4歳、全体では40.4歳、平均勤続年数は男性が24.0年、女性が10.4年、全体では12.6年であった。

### 3) 期間：

2015年(平成27年)11月中旬から12月下旬にかけて実施した。

### 4) 倫理的配慮：

調査用紙の表紙には、アンケートの結果が研究責任者によって厳重に管理され、厳正にプライバシーを守り、取り扱われることが明記されている。回収時にも個人が特定されることのないように配慮した。また、フェイスシートにおいて、研究の協力に同意できなければ、回答しなくてもよいとするチェック項目が設けてあり、質問に対する回答、参加を拒否できる配慮がなされている。調査実施時において、個人情報管理徹底について遵守を申し伝え、結果は、個人が特定できないデータにおいて論文化されることを示唆し協力を得た。

## Ⅲ. 結果

### <幼稚園が存続し続けている理由に関する教職員の意識調査(選択項目)の結果について>

表1は43名の回答者のデータによる幼稚園が存続し続けている理由に関する教職員の意識調査(選択項目)全10項目の回答を示したものである。それぞれ4択あるいは2択での回答結果である。( )内は割合を示しており、一部では無回答の項目もあるが、ここではそれぞれの指数(割合)を比較するので、実態通りの人数のまま掲載する。

表1 幼稚園が存続し続けている理由に関する教職員の意識調査(選択項目)

創立者の理念を理解していますか	よく理解している 13 ( 30.2%)	ある程度は理解している 26 ( 60.5%)	ほとんど理解していない 3 ( 7.0%)	全く理解していない 1 ( 2.3%)
創立者の理念についてどのように思いますか	賛同できる 33 ( 78.6%)	ある程度は賛同できる 9 ( 21.4%)	賛同しにくい 0 ( 0.0%)	全く賛同できない 0 ( 0.0%)
現経営者の理念を理解していますか	よく理解している 16 ( 37.2%)	ある程度は理解している 27 ( 62.8%)	ほとんど理解していない 0 ( 0.0%)	全く理解していない 0 ( 0.0%)
現経営者の理念についてどのように思いますか	賛同できる 36 ( 83.7%)	ある程度は賛同できる 7 ( 16.3%)	賛同しにくい 0 ( 0.0%)	全く賛同できない 0 ( 0.0%)
他の幼稚園と比較して、貴園は優位性があると思いますか	ある 7 ( 17.9%)	ある方だと思う 24 ( 61.5%)	ない方だと思う 8 ( 20.5%)	ない 0 ( 0.0%)
教職員間の関係についてどのように感じていますか	非常に良好な関係 19 ( 45.2%)	どちらかといえば良好な関係 23 ( 54.8%)	どちらかといえば険悪な関係 0 ( 0.0%)	険悪な関係 0 ( 0.0%)
貴園の存続を脅かすものがあると思いますか	ある 29 ( 72.5%)	ない 11 ( 27.5%)		
これまでの貴園の歴史の中で、窮地に追い込まれた事柄があった場合、そのことを知っていますか	よく知っている 6 ( 14.0%)	ある程度知っている 13 ( 30.2%)	ほとんど知らない 11 ( 25.6%)	全く知らない 13 ( 30.2%)
あなたは貴園で貢献していると思いますか	非常に貢献している 3 ( 7.3%)	ある程度は貢献している 31 ( 75.6%)	貢献しているとはいえない 7 ( 17.1%)	全く貢献していない 0 ( 0.0%)
貴園は世襲制ですか	世襲制である 7 ( 17.1%)	世襲制ではない 34 ( 82.9%)		

まず「創立者の理念を理解していますか」の問いに対して、「よく理解している」と「ある程度は理解している」が90.7%、「ほとんど理解していない」と「全く理解していない」は9.3%、「現経営者の理念を理解していますか」の問いに対しては、「よく理解している」と「ある程度は理解している」で100%、「創立者の理念についてどのように思いますか」と「現経営者の理念についてどのように思いますか」の問いに対しては、「賛同できる」と「ある程度は賛同できる」とで、ともに100%であった。創立者と現経営者の理念に対する理解度は概ね肯定的な回答結果であった。

また、「他の幼稚園と比較して、貴園は優位性があると思いますか」の問いでは、「ある」と「ある方だと思う」で79.4% (≒79.5%)、「ない方だと思う」と「ない」で20.5%、「貴園の存続を脅かすものがあると思いますか」では、「ある」が72.5%。「ない」が27.5%であった。次いで「これまでの貴園の歴史の中で、窮地に追い込まれた事柄があった場合、そのことを知っていますか」の問いに対しては、「よく知っている」と「ある程

度知っている」で44.2%、「ほとんど知らない」と「全く知らない」で55.8%であった。これらの結果では園の優位性に対する認識と存続に対する危機感及び歴史的事実の伝承の度合いを示す問いではあるが、優位性に対して肯定的な回答が多く、存続への危機感が強い一方で、園の歴史的危機への伝承は十分に伝えられてない結果となった。

「教職員間の関係についてどのように感じていますか」の問いに対しては、「非常に良好な関係」と「どちらかといえば良好な関係」合わせて100%の回答結果で、「あなたは貴園で貢献していると思いますか」の問いに対しては、「非常に貢献している」と「ある程度は貢献している」で82.9%、「貢献しているとはいえない」と「全く貢献してない」で17.1%であった。

これらの結果から6園に共通する点として、回答者全員が肯定的な回答（100%の回答）を寄せた4項目「創立者の理念についてどのように思いますか」、「現経営者の理念を理解していますか」、「教職員間の関係についてどのように感じていますか」の問いに対しての理解が、存続し続けていくために必要な理由として示される結果となった。

### ＜幼稚園が存続し続けている理由に関する教職員の意識調査（記述項目）の結果について＞

①～⑮は43名の回答者のデータによる幼稚園が存続し続けている理由に関する教職員の意識調査（記述項目）全15項目である。

- ①創立者の理念について
- ②現経営者の理念について
- ③自園の優位性について
- ④自園の強みについて
- ⑤保育技術の向上について
- ⑥教職員の関係について
- ⑦子どものためのよりよい保育について
- ⑧自園の存続を脅かすものについて
- ⑨自園が窮地に追い込まれた事柄について
- ⑩自園が窮地から抜け出すことができた理由について

- ⑪存続の条件について
- ⑫自園の特色について
- ⑬自園で貢献していることについて
- ⑭自園が存続していく上で必要なものについて
- ⑮園を存続させるにあたっての世襲制について

これらの項目の回答（理由）は記述のため、回答者個人の回答内容（異音同義）を整理し、類似内容を集め、キーワードなど短文に整理した。質問と異なる回答内容については消去した上で、次のような回答結果になった。（ ）内の数字は回答件数である。

- ①「創立者の理念についてどう思いますか」
  - 一人ひとりの子どもを大切にしたところがよい（6件）
  - キリスト教の考え方に基づく保育を取り入れたところがよい（4件）
  - 保育の原点を大切にしたところがよい（4件）
  - 子どものために園を創設したところがよい（2件）
  - 障害児のための保育を取り入れたところがよい（2件）
  - 女子教育に力を入れたところがよい（1件）
  - 貧民児のための保育を取り入れたところがよい（1件）
- ②「現経営者の理念についてどう思いますか」
  - 創立者や歴代園長の理念や考え方を継承しているところがよい（5件）
  - 子どもを中心とした保育を取り入れたところがよい（4件）
  - キリスト教の考え方に基づく保育を取り入れているところがよい（2件）
  - 遊びを中心とした保育を取り入れたところがよい（2件）
  - 子どもの人権や権利を保障しているところがよい（2件）
  - あるがままの子どもを受容しているところがよい（2件）
  - よりよい環境構成を整えているところがよい（2件）
  - 時代の流れに応じた対応をしているところがよい（1件）
  - 利益より子どもへの保育を優先しているところがよい（1件）
  - 考え方が一貫しているところがよい（1件）
  - 誰もが入園できるようにしているところがよい（1件）
- ③「自園の優位性は何ですか」
  - 自然環境がよいところ（6件）
  - 子どもと保育者の個性を大切にしているところ（5件）
  - キリスト教精神に基づく保育をしているところ（2件）
  - 教職員の連携が強いところ（1件）
  - 保育者が園長であるところ（1件）
  - 障害児保育をしているところ（1件）
  - 両親参加型の保育をしているところ（1件）
  - 季節を意識した保育活動をしているところ（1件）
  - 昔ながらの園舎であるところ（1件）
  - アットホームなところ（1件）
  - 保護者からの信頼があること（1件）

- 子育て支援がよいところ (1件)
  - 保育者の数が多いところ (1件)
  - 待遇がよいところ (1件)
- ④「自園の強みは何ですか」
- 自然環境がよいところ (9件)
  - キリスト教精神に基づく保育をしているところ (5件)
  - 少人数保育をしているところ (4件)
  - 保育者の熱意が強いところ (2件)
  - 教職員の人間関係が良いところ (1件)
  - 教職が協力的なところ (1件)
  - 規模が大きく、歴史や伝統があるところ (1件)
  - バランス(主体性・多様性・統一性・管理性・機能性・安心度)がとれた保育をしているところ (1件)
  - 個人に合わせた保育をしているところ (1件)
  - 遊びを中心とした保育をしているところ (1件)
  - 障害児保育をしているところ (1件)
  - 昔ならではの遊びをしているところ (1件)
  - 身体を使った遊びをしているところ (1件)
  - 心の育ちを重視しているところ (1件)
  - 複数担任制であるところ (1件)
  - 保護者支援をしているところ (1件)
  - 経営者の考え方が柔軟であるところ (1件)
  - 保育に対する哲学があるところ (1件)
  - 若手保育者を育成しているところ (1件)
  - 保護者からの協力が得られるところ (1件)
  - 多くの人の支えがあるところ (1件)
  - 卒園生の数が多いところ (1件)
- ⑤「保育技術を向上させるために何が必要ですか」
- 研修 (12件)
  - 保育経験・実践 (8件)
  - 教職員の連携 (6件)
  - 日々の保育の振り返り (6件)
  - 先輩保育者からの学び (4件)
  - 心身の健康 (5件)
  - 違う保育者の保育参観 (2件)
  - 保育者自身の成長 (2件)
  - 子どもから学ぶ姿勢 (1件)
  - 他園との比較 (1件)
  - 園の魅力 (1件)
- ⑥「教職員の良好な関係についてどう思いますか」
- 話しやすい環境や雰囲気や大切にすること (7件)
  - 子どもの様子などの報告・共有し合うこと (6件)
  - 互いに思いやる気持ちを持つこと (5件)
  - 園長の人間性による (2件)
  - 同じ保育理念での保育実践をすること (2件)
  - ほどよい上下関係と横のつながりを大切にすること (2件)
  - 互いの持ち味を生かすこと (2件)
  - 後輩を育成すること (2件)
  - 感謝の気持ちを言葉で表すこと (1件)
- ありのままの保育者を受容すること (1件)
  - 補助教諭との連携を図ること (1件)
  - 報告・連絡・相談をすること (1件)
  - 毎日朝礼と終礼を実施すること (1件)
  - 週一回のミーティングを実施すること (1件)
  - アットホームであること (1件)
  - 園内研修を充実させること (1件)
  - 教職員の数が少ないこと (1件)
  - キリスト教迫害によるつながりがあること (1件)
- ⑦「子どものためのよりよい保育とはどのような保育ですか」
- 子どもの気持ちに寄り添う保育 (7件)
  - 自主性を尊重し自立できるよう援助する保育 (3件)
  - 子どもを主体とした保育 (2件)
  - ありのままの姿を受け入れる保育 (2件)
  - 一人ひとりの成長に合わせた保育 (2件)
  - 子どもとともに保育者も成長する保育 (2件)
  - 子どもとともに喜び合ったり悲しみ合ったりする保育 (2件)
  - 愛情をもった保育 (2件)
  - 環境をより良く整えていく保育 (2件)
  - 子どもの出来る力を引き出す保育 (2件)
  - 友達との関わりがないとできない保育 (2件)
  - 子どもが楽しいと思える保育 (2件)
  - 自他を大切に思える力が身につく保育 (2件)
  - 一人ひとりを大切にしたい保育 (1件)
  - 常に子ども目線の保育 (1件)
  - 子どもの年齢に合わせた保育 (1件)
  - 子どもの日々の姿に合った保育 (1件)
  - 子どもを最優先に考えての保育 (1件)
  - 言葉や表現しきれない思いを汲み取る保育 (1件)
  - 温かく見守りながら援助する保育 (1件)
  - 保育者の思いが先走らない保育 (1件)
  - 遊びを大切にしたい保育 (1件)
  - 子どもが喜び夢中になって毎日を過ごせる保育 (1件)
  - 季節に合った保育 (1件)
  - 子どもらしく自信をもって成長できる保育 (1件)
  - 家庭では体験できない保育 (1件)
- ⑧「存続を脅かすものは何ですか」
- 少子化 (13件)
  - 保護者のニーズの変化 (7件)
  - 経済的理由(経営難) (4件)
  - 認定こども園・保育園化の流れ (3件)
  - 園の方針に対する批判と無理解 (2件)
  - 施設の老朽化 (2件)
  - 同族グループ校の廃校 (1件)
  - 政府の考え方 (1件)
  - 他園の存在 (1件)
- ⑨「窮地に追い込まれた事柄は何ですか」
- 原爆投下による被害 (11件)

- 赤字経営による閉園への動き（3件）  
 ○園児数の減少（2件）  
 ○園長交代（2件）  
 ○園舎の移設（1件）  
 ○戦前のキリスト教保育に対する迫害（1件）
- ⑩「窮地から抜け出すことができた理由は何ですか」  
 ○教職員の保育への情熱が強かったこと（4件）  
 ○周囲の人々からの支援・援助・協力があつたこと（3件）  
 ○献金・寄付・物質的援助があつたこと（3件）  
 ○子育て支援制度が変更されたこと（1件）  
 ○施設型幼稚園移行による補助金を受給できるようになったこと（1件）  
 ○園への補助金が支給されるようになったこと（1件）  
 ○一貫性のある取り組みをしていること（1件）  
 ○教学上のガバナンスがあること（1件）  
 ○園長の力によるところ（1件）  
 ○牧師園長から主任へ交代したこと（1件）
- ⑪「存続の条件は何ですか」  
 ○園児数を増加させること（5件）  
 ○時代のニーズや変化に対し柔軟に対応すること（5件）  
 ○保護者や地域からの信頼と応援があること（5件）  
 ○保育内容の周知と理解を得ること（4件）  
 ○歴代園長の理念を継承すること（4件）  
 ○教職員間のチームワークをよくすること（3件）  
 ○園の理念への理解を得ること（3件）  
 ○信念のある保育をすること（2件）  
 ○地域との連携を図ること（2件）  
 ○資金が必要であること（2件）  
 ○教職員の質を向上させること（2件）
- ⑫「自園の特色は何ですか」  
 ○キリスト教保育をしているところ（14件）  
 ○豊かな自然環境があるところ（10件）  
 ○個性・個人を大切にしているところ（5人）  
 ○青少年赤十字活動をしているところ（4件）  
 ○遊びを中心とした保育をしているところ（3件）  
 ○異年齢保育をしているところ（2件）  
 ○手作り弁当を持って来させているところ（2件）  
 ○園バスがないところ（2件）  
 ○草履での生活をしているところ（1件）  
 ○自由保育をしているところ（1件）  
 ○子どもとの距離感が近いところ（1件）  
 ○保育者と保護者との信頼関係が強いところ（1件）
- ⑬「あなたが自園で貢献しているといえることはどのようなことですか」  
 ○教職員への補助をしていること（5件）  
 ○保育体験や育児経験によるアドバイスをすること（5件）  
 ○できる事はしっかりすること（4件）  
 ○子どものため園のために一生懸命働くこと（3件）
- 時代のニーズや様々な場面を理解した上での対応をすること（2件）  
 ○学院と園の調和を図ること（1件）  
 ○子どもと保育者の調和を図ること（1件）  
 ○保護者と保育者の調和を図ること（1件）  
 ○保育者同士の調和を図ること（1件）  
 ○地域と保育者の調和を図ること（1件）  
 ○保護者のニーズをリサーチすること（1件）  
 ○教職員への相談にのること（1件）  
 ○保護者との良好なコミュニケーションを図ること（1件）  
 ○子育てをしながらの仕事をしていること（1件）  
 ○自身が健康であること（1件）  
 ○キリスト教保育を大切にすること（1件）  
 ○担任保育者であること（1件）  
 ○教職員や子どもに対し分かち合う気持ちを抱くこと（1件）  
 ○子どもの成長を見守り導くこと（1件）  
 ○絵本コーナーの充実を図ること（1件）  
 ○資料作りをすること（1件）  
 ○多くのスキルがあること（1件）  
 ○礼拝時に献金をすること（1件）
- ⑭「自園が存続していく上で必要なものは何ですか」  
 ○園児数を確保すること（4件）  
 ○保育者を確保し育成すること（4件）  
 ○時代のニーズや変化に対し柔軟に対応すること（3件）  
 ○園や教職員への信頼があること（3件）  
 ○保育の質を向上させること（3件）  
 ○保育者の意識を向上させること（3件）  
 ○保育者が日々努力すること（2件）  
 ○在園児と保護者を大切にすること（2件）  
 ○保護者が協力してくれること（2件）  
 ○保護者が手作り弁当をつくること（2件）  
 ○資金が必要であること（2件）  
 ○教職員の連携を図ること（1件）  
 ○園の特色を大切にすること（1件）  
 ○働きやすい環境作りをすること（1件）  
 ○保護者や地域からの支援（1件）  
 ○子どもの人権を尊重すること（1件）  
 ○伝統と新規事業の調和を図ること（1件）  
 ○親子で徒歩登降園すること（1件）  
 ○信念のある保育をすること（1件）  
 ○縦割り保育をすること（1件）  
 ○命を大切に思う心を育てる理念を堅持すること（1件）  
 ○昔から変わらない温かさを大事にすること（1件）  
 ○園児のマイノリティを向上させること（1件）  
 ○経営者が健康であること（1件）  
 ○後継者をつくること（1件）  
 ○園の環境整備をすること（1件）  
 ○園生活の情報を発信すること（1件）  
 ○子どもと保護者の気持ちを思いやること（1件）  
 ○子どもを愛すること（1件）  
 ○神様の愛・御言葉を受け入れること（1件）

⑮「園を存続させるにあたって世襲制をどう思いますか」

- 世襲制自体は良いと思う(2件)
- 保育の本質は変わらないと思う(2件)
- 時代の流れに応じて対応すればよいと思う(2件)
- 保育者の日々の努力で補えると思う(2件)
- 世襲制の継続は困難だと思う(1件)
- 園長交代の意思はある(1件)
- 継承意思者の受け入れを容認したいと思う(1件)
- 歴代園長の理念が継承されていけばよいと思う(1件)
- 子どもにとって必要なことは伝達した方がよいと思う(1件)
- 保護者や地域の信頼と支援があれば関係ないと思う(1件)
- 教職員の信頼関係によると思う(1件)

このように15の記述項目の回答内容と件数で示される結果であるが、「創立者の理念」については、キリスト教や子どもといった、思想や対象者が具体的に示され、「現経営者の理念」については、創立者の理念を継承した上で、歴代園長らによりキリスト教の考え方に基づく保育や子ども中心・遊び中心など、より具体的な保育についての内容が示された。「自園の優位性」については、自然環境のよさやキリスト教精神に基づく保育をしているところを大切にというのが多く、それに関連し、「自園の強み」についても自然環境が最も多かった。次いでキリスト教精神に基づく保育、少人数保育、保育者の熱意といったことが挙げられた。「保育技術の向上」については、研修が最も多く、次いで保育経験・実践、教職員の連携、日々の保育の振り返りといった、保育現場で子どもと直接かかわることを通して得られる経験を重要視する回答であった。

「教職員の関係」については、話しやすい環境・雰囲気が良い、子どもの様子などの報告・共有、教職員同士が互いに思いやる気持ちを持つという回答が多く、教職員の良好な関係性が見て取れる結果であった。「子どものためのよりよい保育」については、子どもの気持ちに寄り添う保育が最も多く、自主性を尊重し自立できるよう援助する保育や、子どもを主体とした保育、ありのままの姿を受け入れる保育、一人ひとりの成長に合わせた保育など、教職員によって、言葉による表

現は異なるものの、子どもの視点に立った保育のあり方が挙げられた。

「自園の存続を脅かすもの」については、少子化が最も多く、次いで保護者のニーズや経済的理由(経営難)、認定こども園・保育園化の流れといった回答で、幼稚園独自の努力では対応できない内容の回答結果が寄せられた。「自園が窮地に追い込まれた事柄」については、1945(昭和20)年8月6日午前8時15分に広島市への原子爆弾が投下されたことに纏わる内容の記述がほとんどであった。これに関連して「自園が窮地から抜け出すことができた理由」については、戦後の復興を果たすために、教職員の保育への情熱や周囲の人々からの支援・援助・協力、それに寄付や献金などにより、窮地から脱することができたとの回答が多かった。

「存続の条件」については、少子化や時代の流れによる影響により、園児数の増加や時代のニーズへの柔軟な対応が最も多く、次いで教職員間のチームワークや園の理念への理解、歴代園長の理念の継承といった園内に関する条件が示された。「自園の特色」については、6園中5園がキリスト教の幼稚園(残り1園は無宗教)であることから、キリスト教保育と回答する教職員が多く、次いで豊かな自然環境や個性・個人を大切にす保育の順であった。無宗教の幼稚園では青少年赤十字活動を特色として挙げていた。「自園で貢献していること」については、教職員への補助やできる事をしっかりする、保育体験や育児経験によるアドバイスで、自分自身と他の教職員への仕事での取り組みに重点が置く結果であった。「自園が存続していく上で必要なもの」については、先の「存続の条件」と似た結果となり、園児数の確保、時代の変化への柔軟な対応が多いが、保育の質の向上や保育者の意識向上、保育者の育成、保育者の日々の努力といった内容の項目も多く寄せられた。

最後に「園を存続させるにあたっての世襲制」については、世襲制自体は良い、保育の本質は変わらない、時代の流れに応じて対応といった回答が寄せられた。

#### IV. 考察

本研究では、幼稚園が存続し続ける理由に関して、対象園に現在勤めている教職員への意識調査を実施し、選択項目と記述項目による回答を得た。選択項目では、10項目中4項目は100%の肯定的な回答を示し、創立者や現経営者への理念に対する理解度の高さや、教職員間の関係の良さといった、組織内部のまとまりや結束が存続し続ける上で必要な理由として示された。一方で園の危機的状況については55.8%の教職員がその事実を「全く知らない」あるいは「ほとんど知らない」との回答が示されており、このことが存続の理由にあたるのか、またその事実を知ることによって存続し続ける可能性が高まるのかは疑わしいものの、採用年度当初や年度前研修などにおいて、こうした園の歴史的事実についての話はあって然るべきものではあるが、現状として6園全体としてはこのような結果が示された。しかしながら回答者全員が「よく知っている」「ある程度知っている」と回答している園も一部あり、これ以外の園で「全く知らない」あるいは「ほとんど知らない」との回答者の多くは、経験年数の少ない若年層の教職員に見られる傾向がある。

記述項目では15項目の具体的な回答内容から、それぞれの質問項目の傾向が明らかとなったが、これらの項目から見えてくる存続の理由についてまとめてみると、全教職員が創立者や現経営者の理念に対する理解と賛同の意思を心から示し、全教職員共通認識の下で、理念に基づく保育を一人ひとりの子どものために展開する。実施に当たっては、豊かな自然環境による保育やキリスト教精神に基づく保育、少人数保育、異年齢保育、青少年赤十字活動などといった各園の強みや特色、優位性を前面に押し出す。その保育技術の向上を図るためには、日々の保育実践を踏まえた保育の振り返りと定期的な研修及び教職員間の連携、互いに思いやる気持ちを持つてのアドバイスが必要となる。そのためには話しやすい職場環境での雰囲気づくりが大切で、開かれた職場環境であることが、子どもに関する情報の共有化はもとより教職

員自身の保育実践などでの悩みの解決につながる。

しかしながら少子化による園児数の減少、それに伴う経営難、加えて時代の流れによる保育者のニーズの多様化や認定こども園・保育園化の流れといった現実と直面している現状から、幼稚園存続の条件として、園児数の確保は絶対である。そのために必要なこととして、子ども、保育者、保護者の三つの視点を踏まえ、時代の流れに応じた柔軟な対応をしていくことが存続し続ける上で重要である。

広島県内の幼稚園の多くは、原爆被害による危機的状況から様々な苦勞を抱え、乗り越えながら復興を果たし現在に至っている。広島県幼稚園130年の歴史や我が国においては140年の歴史を踏まえ、幼稚園が存続し続けることの意味や重みをしっかりと感じながら、関係する人々には、さらなる努力をお願いし、今後のさらなる発展に尽くしてほしいと願うものである。

#### 謝辞

本研究を進めるにあたりまして、ご協力いただきました広島女学院ゲーンズ幼稚園、フレーザー幼稚園、尾道幼稚園、めぐみ幼稚園、聖愛幼稚園、的場幼稚園の皆さまに感謝し、深く御礼を申し上げます。

#### [参考文献]

- 1) 岡崎善治：“広島県における幼稚園の設立と発展過程に関する研究－明治期に創設された幼稚園(8園)を中心に－”明星大学通信教育部「明星大学通信制大学院研究紀要」, pp.31-41, 2012